

「好き！」をふやそう～新学期のスタートに想う～

校長 渡邊 正博

本日(4月7日)、着任式・始業式・入学式を行い、令和5年度がスタートしました。保護者の皆様、お子様のご入学・ご進級、誠におめでとうございます。状況に合わせた新型コロナウイルス感染症防止対策を進めながら、学校では、生徒の命を守りきることを念頭に置き、生徒一人一人の力を引き出し、伸ばし、鍛える教育活動を進めてまいります。

始業式では、次のような内容の話をしました。

新学期のスタートにあたり、私から1つだけお話をします。

「好き！」を増やしましょう。

好きなこと、好きな本、好きな運動、好きな勉強、好きな給食、友達の好きなどころ、先生の好きなどころ、おうちのひとの好きなどころ、そして、自分の「好き」などころ。

「好き」が増えると、どうなるでしょう。怒りっぽくなるかな？そんな人はいないと思います。じゃあ、「好き」が増えると、「好き」を見つけると、「好き」なことをしていると、「好き」なものにかこまれたら、どんな気持ちになるでしょう。

私は、楽しくなって、笑顔になるように思います。では、どうしたら「好き」になれるか？

「好き」を増やせるか？それを考え、実行する1年にしてほしいと願っています。

「好き」を増やして、笑顔いっぱいの兼山小学校をみんなで創っていきましょう。

可児市は学校教育では、「笑顔の学校」づくりを進め、その「笑顔の“もと”」を学校で、そこで学ぶ子どもたち、教職員が生み出していく営みを進めています。これには家庭・地域の方々のご理解ご協力が必要です。兼山小学校の特色である「兼山学」「金管バンド」「小規模校のよさ」を生かし、みんなで一緒に「笑顔の“もと”」を見つけ、大きく育てていきたいと思っています。どうぞ、本校の教育活動へのご理解、さらには積極的なご参加よろしく願いいたします。

◆「好き」になる時・・・

この4月に赴任した私には、通勤路、校舎内、会議の内容、先生方との出会い・・・全てが新鮮でした。同じく転入職員の先生からは、「早く子どもたちに会いたい」という声が聞こえました。天気が良かった4/4、運動場に出てみたら児童クラブに来ていた子どもたちがいました。「こんにちは」と声をかけると、初めは距離がありましたが、すぐに回りを囲まれ「村上先生ですか？」との第一声。まだ、正体は隠しておこうと思ったら「新聞で読みました。男の先生の名前は村上と渡邊でした。」「名を名乗れないのは不審者ですか。」・・・何とも人懐きを感じたこのやりとりから、私は一瞬でこの子たちに好感をもちました。何かを「好き」になる時とは、相手(対象)を知りたいと思う好奇心や自分から関わろうという主体性、さらには自分の思いを伝えるコミュニケーション力などが発動された時なのかもしれないと思った一場面でした。

【お気に入りの写真】

写真は小学校と古城山。あの頂にお城が建っていたと想像するだけでワクワクしました。笑顔になりました。私は子どもの頃から城が好きなのです。大学の卒論も城をテーマにしました。城下町での勤務。これは夢の1つでした。想像力(イマジネーション)も笑顔の“もと”かも。

